

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 医学部医学科

組織目標		達成状況(成果)		
教 育	<p>【入学関連の事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Diploma policyを具体的に再検討し、それに見合った形でAdmission policyを具体化、改定する。 2. 岡山大学オープンキャンパスや大学説明会により一層積極的に参加し推進する。オープンキャンパスでは救急救命体験や研究室解放などの魅力的なプログラムを用意する。 3. ホームページを充実させ、高校生への情報発信に努める。 4. 県内及び中四国の高校との共同授業や講演会を行い高大連携を図る。 5. 医師不足に対応し、受け入れ可能な範囲で入学定員の更なる増加に努める。 6. 学士編入学年次を2年次に変更し、その移行に伴う時間割編成を十分検証して円滑な移行を図る。 <p>【学部教育課程関連の事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養教育の改善に努め、受講指導を強化する。 2. 新入生オリエンテーションの強化、養護施設・旭川荘実習の実施、早期体験実習等、初期教育の充実を図る。 3. 医学研究インターンシップ(特色GP)を推進し、活発に海外との交流を行う。欧米やアジアのより多くの大学・研究機関と交流協定を締結し、連携して海外派遣や研究交流を進める。 4. 医療教育統合開発センター等と連携し、地域医療教育を一層充実させて推進する。 5. 新たに先進医学修練プログラム(ART program)を導入し、学部学生が大学院講義を受講する道を開くと共に、学部教育と大学院教育を連結する教育システムを推進する。 6. 現在検討中の臨床実習のあり方の結果に基づき、改革する。 7. 新カリキュラムの細部を検討し、学年進行に支障が生じないように準備をする。 8. FD活動を、研修会型から日常型へ、研修会出席者対象型から全員参画型へと発展させる。 <p>【卒業関連の事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業臨床研修センターと連携し、初期研修制度についての広報、教育を強化すると共に、学生のキャリアパスの構築とその実現を支援する。 2. 医学部卒業生を対象としたホームカミングデイを催し、卒業後の医学部への一体感を醸成する。 	<p>【入学関連の事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 21年度末までにDiploma policyを原案を確定した。22年度初めに学科会議での審議を経て決定する。 2. オープンキャンパス(平成21年8月3日)や大学説明会に積極的に参加し、志願倍率の向上につながった。 3. ホームページの改善を進め、年度末までに試行版を構成員の提示、22年度初めから本格的に運用する。 4. 高大連携の実績:朝日高校体験授業(平成21年12月)他7件を実施した。 5. 昨年度比7名定員増(地域枠:岡山県2名増、広島県2名、兵庫県2名、鳥取県1名)とした。 6. 学士編入試験を2回実施(3年次受け入れ分、2年次受け入れ分)した。 <p>【学部教育課程関連の事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2年次前期からの専門教育本格実施にともない、教養教育を中心として1年次の受講指導を強化し、1年次から2年次への進級要件を運用した。 2. 地域枠学生を対象に、哲西町診療所など3カ所、早期地域医療実習を実施した。 3. 平成21年度の海外派遣は、新型インフルエンザ発生のため中止されたが、医学研究インターンシップ(特色GP)最終年度の活動を推進し、最終報告書とDVDを完成させた。 4. 平成22年2月16日第1回地域医療教育シンポジウム「ここからはじまる」を公開で実施した。 5. 先進医学修練プログラム(ART program)を導入し、平成22年度に科目等履修生としてプレARTを開始する学生は、23名(新4年7名、5年8名、6年8名)に及ぶ。特筆すべきは「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に、「ARTプログラムによる医学研究者育成」が採択された(H21年8月)。 6. 臨床実習の全面的に改善を準備し、平成22年4月から実施する。これにより、クリニカル・クラークシップが実質化する。 7. 1年次に生物学実習を新設するなど、新カリキュラム実施に万全を期した。 8. 恒例の海の日FDを平成21年7月18日実施した。 <p>【卒業関連の事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業臨床研修センターと連携し、大学病院での研修についての広報を強化し、フルマッチを達成する見込みである。 2. 医学部卒業生を対象としたホームカミングデイを、平成21年11月3日実施した。 	達成度: 4 ③ 2 1	
	研 究	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究交流部と共同で外部資金獲得セミナーを実施すると共に、助成金申請書のブラッシュアップ体制を強化して、文部科学省科学研究費、厚生労働科学研究費、NEDOなどの獲得を推進する。 2. 研究科、病院と連携してトランスレーショナル・リサーチを推進し、その過程で研究人材の育成を行う。 3. 関連分野が合同で研究発表と議論の場を恒常的に持ち、共同研究を推進する。またそれを基盤に大型研究費の申請体制を構築する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学技術振興調整費「ナノバイオ標的医療の融合的創出拠点の形成」は「終了課題」と決定した。しかしナノバイオ標的医療拠点形成は、平成21年度採択の岡山メディカルイノベーションセンター(OMICS)構想に引き継がれる。 2. 病院に平成21年度新医療開発センターを設置し、新教授2名が着任し、トランスレーショナル・リサーチ、臨床研究の体制の整備が進んだ。 3. 平成21年3月の「生体制御科学専攻シンポジウムと岡山脳研究セミナーの合同シンポジウム」など、専攻別にミニシンポジウムを開催した。 	達成度: 4 ③ 2 1
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 行政当局、関連病院、NPO法人岡山医師研修支援機構等と協力し、地域医療の支援に努める。 2. 市民公開講座、一般市民を対象とする講演会などに積極的に参画し、医療情報の発信に努める。 3. 所属教員が学会、研究会等を主催する際は、市民公開講座、他大学生、高校生への招待など、社会に開かれた運営に努める。 4. 医学部共同実験室の各種高度機器を外部研究者にも利用可能な体制をひいているが、その機器の先端化、拡充に努め、より一層の利便性、有用性に努める。 5. アジア地域の各大学、研究機関と連携し、教育・研究協力、医療支援、留学生の受け入れを積極的に進める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岡山県地域医療再生計画が採択され、県による寄附講座の開設準備を進め、H22年5月には新教授2名が着任する。 2. H21年8月、岡山健康講座2009-やさしい保健と健康の話を保健学研究所と共催した。 3. 第97回日本泌尿器科学会総会(H21年4月岡山市)で、市民公開講座「明日は変えられる さわやかシニアの泌尿器科的アンチエイジング」を開催した。 4. 医学部共同実験室の機器の先端化が、補正予算により大きく進展し、新規導入機器の説明会を順次実施した。 5. 平成21年9月国際シンポジウム「アジアにおける公衆衛生人材育成」を開催し、シンポジウム前日には、A-SPH 連携予定校である、タイ国のチュラロンコン大学と実務者協議を行った。 	達成度: 4 ③ 2 1
客 観 的 指 標	事項	前年	今年の目標	達成状況
	学部入試倍率	前期 3.0倍 後期 13.7倍	前期 3~4倍 後期 10~14倍	前期 3.0倍 後期 19.7倍
	大学院充足率			
	科研費申請率			
	科研費採択率			
	共同研究件数			
	受託研究件数			
	留年・休学・退学者数	留年14名、休学4名、 退学1名	(今年の状況) 少なくとも増加の防止に努める	留年14名、休学1名、 退学0名
就職率	未発表	前年を維持%	未発表	
<p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。</p> <p>上記の通り、多くの目標を設定し、その全てにおいて取り組みを展開し、相応以上の成果を上げた。特筆すべきは、臨床実習プログラムの改善、本年度GP採択のARTプログラム等による医療人のシームレスなキャリア形成の推進、地域枠拡大と岡山県・市との地域医療連携の推進、ナノバイオ標的医療のOMICS事業の採択などである。</p> <p>次年度にむけては、これらを中心に、より重点を置いた組織目標を策定し、それを着実に実現していきたい。</p>				

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)